



館の諏訪神社

2、観音寺と諏訪神社 村の北端、館の下の字に接して、大正二年に建てた「聖観世音、真言宗、福聚山小館院司」の石標を右にしてはいると、真言宗の福聚山観音寺がある。山号の福聚山は田村山の養泉院と同じである。天正三年（一五七五）円智という僧が修補したとあるから、さらに古く建立されていたとみられる。間もなく天正十六年（一五八八、天正十七年か）の兵火にかかり、同じく円智が修理したように伝えている。

観音寺の本尊は阿弥陀如来で御丈八一・五センチ、別殿観音堂の徳一大師作とも伝える聖観世音は立像で、御丈一・〇四五メートル、明和三年（一七六六）一月二十一日「常州水戸向手町御堂漆細工、願主与右エ門」が、上半身を塗りかえている。古い像は寄せ木で上に布を張り漆をかけ、上に金泊をおいているが、塗りかえた塗料は、金泊ではなく、同時に塗りかえた台座と共に惜しむべき加工であったと思われる。心持ち下腹部が張って、顔立ちが柔和であるところから、「はらみ観音」などともいわれ、懐妊婦の信仰が厚いといわれる。

村人は天正年間の兵火の際は、像を七兵屋敷に移して難をさげられたといい、堂宇のみ再建と伝えている。その時の七兵衛屋敷は今の堂の北三〇〇メートル辺にあり、大正十一年頃まで屋敷があったが、耕地整理の際田圃になった。

村西の道路わきに孤立した不動堂が建っているが、この本尊も大正十三年頃、付近を荒した人の手にかかり昇天、現在のものは昭和の初